

神戸市会 会議録

2007.10.02 : 平成 19 年決算特別委員会第 1 分科会〔18 年度決算〕(企画調整局) 本文
(一部抜粋)

51 : 分科員(北山順一)

分科員(北山順一) それでは質問をさせていただきます。残りも少ないテーマばかりで、いいテーマは残っておりませんが、デザイン都市ということについてお伺いをいたしたいと思います。

昨年 2 月にデザインをまちづくりに生かすための研究会というのを立ち上げました。ことしの 4 月には素早くデザイン都市推進室をつくられました。神戸市がやることですから、もっと時間かかるだろうと思ったら、まことに素早くやりました。このことについては大したもんだと、こういうふうにして見えております。

神戸市がデザイン都市を目指すということが発表された。そして、そのときには既に名古屋がデザイン都市という看板を掲げておりました。横浜や京都などの自治体も、デザインの要素を取り入れたまちづくりを進めておりました。デザイン都市・神戸は、こういった他の自治体の追従、後をついていくんではなくて、神戸市独自の、他にはまねのできない神戸の持つあらゆる資源をフルに活用したデザイン都市を構築すべきであると考えております。他の自治体との差別化をどのように図ろうとしているのかをお伺いをいたしたい。

それから次に、デザイン都市・神戸は、単にまちの景観が美しいといったことだけで実現できるものではありません。文化あるいは教育、芸術、さらには市民のライフスタイルにまで影響を及ぼすものでなければならない。そういった意味では、デザイン都市・神戸は、市役所内のあらゆる部署に私は関係しておると、こういうふうにしております。これを推進する役割を担う企画調整局の果たさなければならない役割は非常に重要であると考えております。

例えば文化という観点では、市内には異人館や旧居留地にあるビルなど数多くの歴史的建造物があります。これを永久に保存することは、非常に重要なことでありますし、さらにはこれを一歩推し進めて、他都市で取り壊されようとしているような歴史的建造物を神戸のまちへ持ってきて、保存・活用するといったような取り組みも行うべきであると考えております。

また、国内外で開催されているような芸術のイベント、ことしはビエンナーレをやることになってますが、例えば音楽祭、国際映画祭、こういうものを神戸で開催するように私は考えるべきだと、こういうふうにしております。前のときにも私はこのことについては国際映画祭を神戸でやってほしいということを行いました。

先日、テレビを見ておりましたら、アニメの国際映画祭をやるんだというのが、神戸ではなかったんですが、そういうことが出ておりました。つい先日です。だから、神戸も大いに頑張ってもらいたいと、こういうふうにしておりますし、また先日の新聞見ておったら、2～3 日前ですね、神戸大学医学部が美容整形をやりますというてね、国立大学で初めてそれに取り組む。これこそ私はこのデザイン都市の大きなテーマの 1 つだと。こういうふうなことを神戸大学は取り組むということに、大いに意義があると思

っております。中央市民病院も取り組んだらいいんじゃないかなと、そういうふうに思っております。今、アジアの若い人々も、若くない人々も、ソウルへ行くんですよ。ソウルへ行ってプチ整形というのを受けて、3泊ほどして帰ってきよるんです。ああいう都市・神戸を目指したって、そのデザイン都市の中にそれがあつたって私はいいと、こういうふうに思っております。そういうことから、神戸大学はああいう先鞭をつけてくれたということは、非常にありがたいことだと、こういうふうに思っておりますので、デザイン都市というものは非常に幅が広いんだということをよくご認識いただいて、私はご答弁いただきたいと、こう思っております。

それから、2番目に、市街地西部の活性化について、これはもう午前中からずっとこのテーマで話は出ておりました。地下鉄海岸線をつくっていただくことについても、つくってほしいということからも、随分私も努力をさせていただきました。地下鉄海岸線できました。23のプロジェクトをつくっていただきました。23のプロジェクトをつくっていただきましたときに、大阪ガスの跡地と、それから御崎公園の跡地と、今まさに跡地になろうとしております中央卸売市場の前の土地と、こういう3つがその23のプロジェクトの中の一番大きなポイントになりますよと。この3つをいかに活用するかということによって、この長田南部、兵庫南部あるいはそれ以西のとも大きなインパクトになるんじゃないかというふうに期待をしておりました。

今、いろいろ頑張ってもらっておりますけれども、私はこれも2年ほど前に申し上げましたけれども、ウイングスタジアムで私は半年かかって何人集まったんだいうたら14万人だったかね、観客を集めましたという、半年でね、できたとき。そのときにポートアイランドでオールサウンズか何とかいう音楽のグループが来たら、1晩で7万人集めて、あれを見てびっくりしたんです。そういうことで、びっくりした経験があります。そういう活用をそのウイングスタジアムも中央卸売市場の前もやってほしいと。

さっきも申し上げましたけども、神戸に異人館がたくさんあつたんですが、だんだん、だんだん減ってきて、今でも異人館一生懸命大事にしておりますけど、減ってます。先日もある新聞見とったら、長崎の異人館が取り壊されるということで、長崎市の市民が、何とかそれは残してもらいたいということで、ほかへ移築することになったんだと、こういうふうな記事が出ておりました。ああいうものをですね、長崎で解体される異人館があるんだつたら、神戸のここへ持ってきたいと。例えばこの中央卸売市場の前に持ってきてもらいたい。あそこのポートアイランドの一番北公園にぼつんと1つ異人館があります。あれは寂しそうですよ。ああいう異人館をまとめてですね、中央卸売市場の前あたりに持ってきて、函館と新潟と横浜と神戸と長崎というたら開港したところでしょう。そういうところの異人館で壊されそうなもの、貴重なもの、そういうものは運河のところへ持ってきていただいて、あそこにそういう観光客を来ってもらうというシステムにしてもらいたいと思っております。

私も広島へ行けば市電に乗ろうと、それも電車来るの、神戸の市電が来るの待って乗ろうと、こういうことになるんです。長崎やら函館の人が神戸へ来たら、自分らの土地にあつた異人館はどういうふうなところでどうなつてるのか、ぜひ見たいと思って来るんです。頑張つてあそこに住宅を建てようというようなことだけは考えずに、小樽の運河に負けない運河、小樽の運河なんかには絶対負けない運河、そういうまちづくりを考えていただきたい。夜間人口はほかのところにも幾らでも土地が空いてますから、よろしく願います、ご回答を。

52 : 中村企画調整局長

中村企画調整局長 北山委員のご質問にご答弁申し上げたいと思います。足らずは部長、室長の方からご答弁申し上げます。

デザイン都市の推進で、他都市との差別化のようなご質疑がございました。ご案内のとおりでございます。人口減少社会の到来あるいは産業構造の変化、空洞化など、社会経済情勢の変化、これが起こってくる中で、市民の皆さんの生活の資質を向上させながら、持続的な都市として発展を遂げていくということ、こういう都市としてどうしていくかということについて、創造都市 クリエーティブシティというようなことを言ってますけど、これを概念として、そういうまちづくりに取り込もうとしている都市が多く出てきてございます、実際問題として。これはどういうことかなと中でも議論してるんですけど、いわゆる文化とか芸術、こういうものが創造されるプロセスで、出される創造力とかあるいは革新力、これが都市の活力を生み出す原動力になるというようなことが、改めて広く認識されてきているということがゆえに、そういうものをまちづくりのコンセプトにしてやっていこうではないかと、こういう都市がいっぱい出てきているということではないかと思うわけでございます。

そういう意味から言うと、神戸も従来からファッション都市あるいはアーバンリゾート都市というように都市像を掲げましてですね、まちづくりに取り組んできてたわけでございますけれども、他都市がそういうことで創造都市戦略に取り組んでいるという状況、神戸は震災から12年たったということで、改めてやっぱり神戸として新しい創造都市の戦略ということを考えないといけないと、こういうことだろうと、このように考えているわけでございます。

他都市との差別化の問題で、改めて、じゃ神戸の持つ特色って何ということ、改めて見詰め直してみるとということになりますと、1つは、やっぱり山と海に囲まれた、大変異国情緒にあふれるまち並みというのが1つの特色になるかと思えます。それともう1つ、次にはやっぱり神戸港の開港以来、外来文化を積極的に取り入れた、開放的で非常に自由な気風とか風土、これはあるわけでございまして、そういうことからなるいわゆる神戸らしい文化ですね。それと3つ目には、ケミカルシューズあるいは洋菓子、真珠、こういったものづくりの技術、こういうものがやっぱり神戸の特色として上げられるのではないかと、このように考えてまして、これらはいずれも開港、いわゆる港が開かれて以来、その港を中心として、外国文化と接する中ではぐくまれてきた、神戸独自の都市としての魅力ではないかと、そういう意味で創造都市戦略のかぎになるのではないかと、このように認識をいたしております、そういうものと、そういう神戸の強みとの関連性ですね、あるいはおしゃれで洗練された神戸のイメージ、そういうことから考えていったら、やっぱりデザインということですね、これが非常にふさわしいのではないかと、こういうことで新しい都市戦略にそれを据えてやっていこうではないかと、こういうのが市長のお考えであるわけでございます。

しかも、このデザインという言葉なんですけれども、えてして目に見える形とか色というだけに言われがちなんです、決してそういうことではなくて、そういうものを生み出すという、前提となる計画とか仕組み、さらにはその考え方のベースになります意図とか考え方、こういうものを含めて、幅広い概念としてのデザインというのが言われているわけでございます。単に経済性、機能性ということだけではなく

て、楽しさや快適さ、さまざまな要素をバランスよく調和させる、それがデザインの力、それが新しいものを創造する力を持っている、このように言われているわけでして、そういうことで私どもとしては進めていきたいなど、このように思っています。

他都市の取り組みというのも、委員、例示されましたけれども、私どもとしては名古屋、確におっしゃってますけど、やっぱりものづくりなどの産業中心だと見えます。それと京都も景観などのまち並みとかあるいは歴史遺産、これまさに京都独自のものだと思います。あるいは横浜はやっぱり都市デザインとおっしゃってますけれども、そんなに概念は広くはございません。あるいは文化、芸術、こういうところに重点を置いて取り組んでおられるように感じております。それに対しまして神戸、今申し上げましたようなことをベースにして、るる午前中からご議論ありますように、景観やまち並みといった、1つはまちの分野、それと2つ目には芸術や文化、ライフスタイルといった暮らしの分野、委員、先ほど例示に出されました美容整形のような話というのは、多分この分野に入ってくるのではないかなと、このように認識しましたけれども、そういう暮らしの分野、それと3つ目には、産業・経済といったものづくりの分野、こういう幅広い3つの分野で、それをバランスよく調和させるような形で進めていけたらと、このように考えておまして、それをもとに市民あるいは教育機関あるいは専門家、それには経済界、協働して神戸らしい創造都市戦略であるところのデザイン都市・神戸、これを推進していきたい。そのことによって震災を乗り越えた新しい神戸、活力のある神戸をつくるべく努力をしまいたいと、このように考えているところでございます。

以下、部長、室長からお答え申し上げます。

53： 玉田企画調整局企画調整部長

玉田企画調整局企画調整部長 中央卸売市場の本場の西側の関係でお答え申し上げます。

昨年度、18年度には学識経験者からなります研究会を設置しまして、いろいろこの土地について、どういう役割が求められるんだという検討をしました。その報告書によりますと、5つのことが書かれております。1つは、市場と連携した食文化ゾーン、これを形成すべきだと。それから2番目には、兵庫南部地域のにぎわいと活性化、これに役立てる、これを起爆剤としての役割が必要だ。3番目には、運河あるいは歴史的資源、これを有効に活用すべきであると。それから4点目には、兵庫南部地域への人口の呼び戻しにつなげていかなければならない。5点目には、事業性の高い土地利用に誘導して、より高額な処分を実現するという、高額な処分ということ、こういうものの要素をいろいろ考えていく必要があるというふうなことが言われております。特にご質疑にありましたように、運河との連携というふうなことも踏まえながら、観光・集客・交流というふうなことで考えてきております。

その委員会の中では、3つのパターンをたたき台といいますか、つくっております。1つは、運河・歴史・食文化を重視した低層店舗中心の食に特化した店舗の利用案、それから2つ目は大規模商業施設を中心として、2画1モールで例えば核の1つを食に特化させる案、3つ目には、分譲住宅を中心としたということで、必要最小限の商業施設と小規模な食関連施設をつくるというふうな、議論を整理する意味で3つをつくっております。そのそれぞれについてメリットなりデメリットを検討してきておるといふふうに聞いております。

今年度に入りまして、新たに学識経験者だけでなく、地元の住民の方、経済界の方、それと神戸市ということで入りました西側土地の利用検討委員会というのが立ち上がりました。これ9月18日に第1回委員会やりました。この中には企画調整局も参画をいたしております。これからはこの中で具体的な利用方法を検討していくわけですが、現在西側、やはり市場、運河が隣接しているということから見ましても、日本最大級の運河とうまく連携をした、ほかにはない、神戸らしい魅力スポットというのは、皆さん意見が一致しているんじゃないかなと。それに向けて具体的にどうやっていくかということ、今後検討していきたいと思っています。

異人館のお話もございましたが、長崎の異人館がいいのか、兵庫にはいろんな歴史がございますので、そういうものを生かしていくのがいいのか、そういうこともこの中で議論がされていくと考えております。以上です。

54： 長田企画調整局デザイン都市推進室長

長田企画調整局デザイン都市推進室長 先ほども局長の方から申し上げましたように、デザイン都市の取り組みは、まち・暮らし・ものづくりというような幅広い分野で取り組んでいこうとしているところでございます。ご指摘の文化・教育・芸術やあるいはライフスタイルというようなことは、今申し上げました暮らしの分野のやはり柱、中心になるものではないかというふうに我々も考えてございます。

特にご指摘のございました歴史的建造物の関係でございますが、やはりこれらの保存なり再活用を進めていくということは、1つはやはり都市間競争のこういう厳しい時代の中で、神戸の個性と魅力を際立たせるための貴重なツールであるというふうに我々もとらえております。また、一方では、古いものを大切にするというようなことは省資源化にもつながるというようなこともございますので、こういう歴史的建造物につきましては、これからデザイン都市を進めていくに当たりましての不可欠な資源であろうというふうに考えてございます。

先ほど他都市からの2件の事例もあったわけですが、申しわけありません、私、その辺、存じ上げておりませんので、そのあたりも今後検討させていただきながら、こういった貴重な資源の保存・再活用を今後、デザイン都市の取り組むべき方向性に据えて進めてまいりたいと思っております。

それから、また文化・芸術関係のイベントといたしましては、現在、例えば国際フルーツコンクールでありますとか、あるいはジャズ発祥の地ということでジャズストリート等々のイベントもございます。さらに、ご紹介ございましたピエンナーレもこの6日から始まるわけですが、多彩なジャンルの文化・芸術イベントが開催されております。

ご指摘にございました音楽祭あるいは国際映画祭ですか、こういったイベントを誘致するという事は、もちろん都市のブランドの向上につながるということで、1つの有効な方策であると考えてございますが、まずは今やっておりますいろんな芸術・文化イベントを継続的に実施をするということで、神戸らしい文化・芸術を発信をしていくということと、もう1つはこういった文化・芸術部門に携わる方々の人材のネットワークを構築していくということが、やはり大切ではないかと考えてございます。

いずれにいたしましても、市民の方々がすぐれた文化や芸術に触れることは、暮らしの質を高めて、暮らしを豊かにするというにつながるのでございますので、大人はもちろんのことでございますが、

やっぱり小さい子供のころから，こういう文化・芸術への興味を高める機会を多くつくって，感性を高めて，創造性をはぐくむことによって心の豊かさにつなげていくということを，デザイン都市の暮らしの分野の主な取り組みとして進めてまいりたいと，このように考えてございます。

以上です。